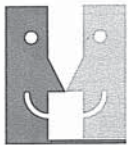


3になる社会
1+1が
1だね!
素敵

コラボレーション

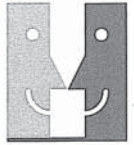
協働

..... c o l l a b o r a t i o n
第18号 2004 12



台風21・23号
緊急特集

プラザ発!! ボランティア活動支援 20日間の記録



阪神・淡路大震災から間もなく10年を迎える平成16年10月20日、台風23号により但馬と淡路を中心に県内各地は大きな災害に見舞われました。大都市地域を直撃した前回の震災と異なり、今回の水害では地方の小都市や中山間地域が被災しましたが、神戸・阪神をはじめとして県内外から3万人を超えるボランティアが駆けつけ、土砂の除去や家屋の後片付けなどに奮闘しました。

被災地の復旧作業が本格化した10月23日、今度は新潟県中越地方で大地震が発生しました。兵庫県や神戸市は直ちに現地の災害対策本部に職員を派遣し、また、県内のNPOも被災地各地に設置されたボランティア本部に経験者を送って救援活動に協力しています。

ところで阪神・淡路大震災が起きた平成7年はボランティア元年とされていますが、そこから数えると今年にはボランティア10年に当たります。震災以後、ボランティア活動に対する理解は深まり、行政や民間企業部門と並ぶ第3セクターとしての期待も高まっています。今回の災害では、10年前の教訓が生かされたかどうか、そしてボランティア部門が行政にも企業にもできない独自の活動を展開できたかどうか問われているのではないのでしょうか。



台風23号被災地では、30,000人以上のボランティアが活躍しました。写真は豊岡市水害ボランティアセンターの受付の様子。

Contents

- P.1-7 台風21・23号緊急特集
「プラザ発!! ボランティア活動支援 20日間の記録」
- P.2-3 台風23号 ひょうごボランティアプラザ(ボランティア本部)の動き、他
- P.4-5 市町社協の動き
- P.6 ボランティアコーディネーターの動き・支援の動き等
- P.7 台風21号豪雨災害 上月町ボランティア緊急派遣レポート
- P.8 プラザ通信「震災10周年記念関連行事」「年末年始休館のお知らせ」

ボランティア活動支援 20日間の記録

〔被害の概況〕

平成16年9月29日に淡路島を横断した台風21号により、岡山県に接する上郡町と上月町(いずれも災害救助法適用)が、千種川と佐用川の増水により、200戸を超える床上浸水の被害に見舞われました。その傷跡が十分に癒えない中、3週間後の10月20日には、大型台風23号が兵庫県全域を直撃しました。雨は、前日の19日未明から断続的に降り続き、風速も県下各地で25メートルを超え、降雨量も200、300ミリに達しました。この台風により、死者25名、全半壊や床上・床下浸水が1万9千世帯を超え、災害救助法が5市13町に適用されました。各地の被害状況は次の通りです。

但馬地域

豊岡市では、深夜に円山川が氾濫し、市街地の9割が被災しました。浸水家屋は8千戸を超え、ピーク時には、3千7百人を超える住民が避難を余儀なくされました。隣接する出石町でも出石川が氾濫し、翌朝になって、鳥居地区で冠水被害が大きいことが判明。この他にも、被害程度の差こ

それ、養父市(旧八鹿町宿南)や但東町、城崎町、日高町、和田山町など、被害は但馬全域に及んでいます。

県内陸部

この11月1日に発足した丹波市では、旧水上町に災害救助法が適用され、阪神間では、宝塚の武田尾地域で冠水被害が発生。県内陸部でも、加古川と杉原川、野間川が合流する西脇市で南部の1千戸が浸水し、道路も寸断されました。また加古川流域の市町(黒田庄町、滝野町、小野市、三木市など)にも大きな被害がもたらされました。

淡路地域

淡路島では、ほぼ全域で、夕刻の満潮とも重なり、河川やため池があふれました。とりわけ、洲本市内の初尾川沿いの物部地区では、2千戸を超える家屋が床上浸水しました。また、相次いで襲来した台風の影響で地盤がゆるみ、土砂崩れなどの被害が多発しました。このためいたる所で道路が通行不能に陥り、神戸淡路鳴戸自動車道も全線が規制されて島外との交通が途絶し、初動の救助活動を停滞させる原因に

〔災害救援本部の設置〕

兵庫県は、20日午後4時40分に、阪神・淡路大震災以来となる災害本部を設置。兵庫県社会福祉協議会も、翌21日早朝に、「災害救援本部」を立ち上げ、その日のうちに、先遣隊を県内4カ所(豊岡方面、西脇方面、洲本方面、津名宮方面)に派遣し、翌22日からは、とりわけ、被害の甚大な豊岡市・出石町、洲本市、津名・宮町の災害(水害)ボランティアセンターの立ち上げに向けて職員を派遣するとともに、被災地におけるボランティア募集状況等についての本部機能をひょうごボランティアプラザに集約することを決定しました。

へひょうごボランティアプラザの対応

兵庫県社会福祉協議会に設置された災害救援本部業務のうち、ひょうごボランティアプラザではボランティア関連の機能を担うこととなり、非常時の緊急体制に切り替え、10月末を目途として正規職員はフ

H16

日付

主な動き

10.20

台風23号により、兵庫県下で広域にわたる被害が発生。兵庫県災害対策本部が設置される。

10.21

兵庫県社会福祉協議会災害救援本部を設置。被災状況の把握、確認のため、県下4ブロック(北播磨地域、淡路地域(洲本市・三原郡)、淡路地域(津名郡)、但馬地域)に先遣隊を派遣。

10.22

豊岡市・洲本市の現地ボランティアセンターの立ち上げに向けて、神戸市社会福祉協議会とともに職員を派遣。

10.23

豊岡市水害ボランティアセンター開設。ボランティア募集開始。出石町水害ボランティアセンター開設。

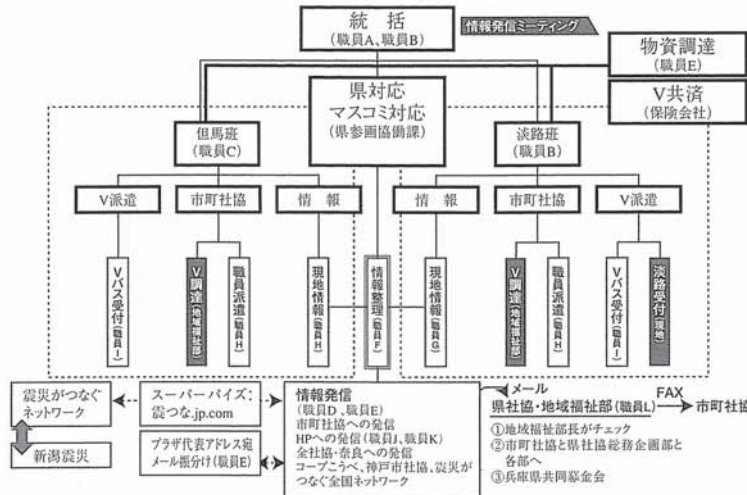
10.24

洲本市災害ボランティアセンター開設。洲本市でボランティア募集開始。養父市でボランティア募集終了。

10.25

豊岡市のボランティア受入場所の移転(中央会館→総合体育館前)

台風23号災害 ひょうごボランティアプラザ支援体制図



ル出勤で臨むこととしました。また、正規職員を被災市町に派遣するため、県社協の他セクションや、兵庫県県民政策部、NPOなどにも応援をお願いし、本部体制の強化を図りました。

業務は地区制と担当制を敷き、地区については、但馬班と淡路班に分け、各班に総括を設け、各地区との連携や情報の集約化を図るとともに、担当制については、全体総括、ボランティアの受付や活動状況の確認、マスコミ対応(記者発表)、ホームページの更新・発信や関係機関への情報提供、救援

〈豊岡市、洲本市の災害(水害)ボランティアセンターの動き〉

物資の受け入れ調整などの業務を分担。この他、県内外のボランティアコーディネーターをはじめとするスタッフの派遣調整やボランティア派遣用バスの調達・受付・運行調整などの業務も途中から加わりました。

(左上の相体制図参照)

豊岡市、洲本市の災害(水害) ボランティアセンターの動き

(豊岡市)	10月23日	市役所に隣接する豊岡市立中央会館内に「豊岡市水害ボランティアセンター」開設
	25日	バスで到着するボランティアを受け入れるため、「豊岡市水害ボランティアセンター」を豊岡市総合体育館駐車場内(豊岡市大磯町)に移設
	28・29日	出石町鳥居ランチ、梶原ランチ、庄境ランチを開設(～31日)
	30・31日	「クリーンアップ大作戦」展開。高校生ボランティアも募り、4千人近いボランティアが駆けつけた。
	11月4日	「豊岡市水害ボランティアセンター」を豊岡市中央会館内に戻す
	7日	「豊岡市水害ボランティアセンター」を豊岡市総合福祉会館内に移設
(洲本市)	10月24日	洲本市総合福祉会館内に「洲本市災害ボランティアセンター」開設
	26日	「洲本市災害ボランティアセンター」をバスターミナル近くの旧カネボウ事務所跡(洲本市塩屋)に移設
	30・31日	高校生ボランティアも募り、1千人を超えるボランティアが駆けつけた
	11月3日 8日	市外からの新規ボランティア募集をいったん終了 「洲本市災害ボランティアセンター」を洲本市総合福祉会館内に移設

台風23号にかかる災害救援ボランティアの活動(10月21日～11月8日)
活動者数 延べ 約32,000人

うち豊岡市	うち出石町	うち洲本市
約11,500人 (1日最大活動人数 2,143人)	約7,100人 (1日最大活動人数 1,667人)	約5,100人 (1日最大活動人数 1,037人)

大量のボランティアを受け入れた豊岡、洲本市の受入体制を紹介します。

11・8	11・4	11・1	10・10 3130	11・4	10・28	10・27	10・26
豊岡市、洲本市、津名郡一宮町で災害特別体制を終了。洲本市災害ボランティアセンター(総合福祉会館)に移転(→総合福祉会館)これにより、被災市町すべてで災害特別体制を終了。	豊岡市水害ボランティアセンター(総合体育館前→中央会館)に移転	出石町で災害特別体制を終了。	豊岡・出石で「クリーンアップ大作戦」を展開。	出石町で町外からのボランティア募集を終了。	津名郡一宮町でボランティア募集開始。	津名郡二宮町の災害ボランティアセンター開設。	洲本市災害ボランティアセンターの移転 (福祉会館→災害ボランティアセンター) 津名郡二宮町の災害ボランティアセンター開設。
兵庫県が洲本市に兵庫県災害救援専門ボランティア(ボランティアコーディネーター)を派遣。	兵庫県台風災害義援金募集委員会が義援金の募集を開始。						

社

協による支援の動き

力を発揮した社協間の連携!

県内の市町村社協から今回被災した市町村社協ボランティアセンターに対し、P6記述の県内外のボランティアコーディネーター派遣やボランティア派遣バスによる支援に加えて、各ブロックごとに、社協同士が連携した支援が行われました。

被災した西脇市社会福祉協議会に真っ先に駆けつけたのは東播磨ブロックの社協でした。また、町内のボランティアと一線に活動した日高町社協や但東町社協の支援に入ったのは、近隣の但馬ブロック及び丹波ブロックの社協でした。また淡路では三原郡内の社協がボランティア募集を連携して広報しました。

外のカと地域の力をつなぐコーディネーター!

被災した市町村社協ボランティアセンターでは、市町内のボランティアと力を合わせた復旧活動において、地域やそこに住む住民、あがってくるニーズを把握し、市町村外から来るボランティアや他団体を、適切なヒト、場所にコーディネーターすることに協力し、活動がより一層推進されました。社協が地域に根ざし、地域住民と日常的なつながりを持っていていたからこそ、外の力を地域となぎ、復興の力として活かすことができましたといえます。

日常の信頼関係が災害時に活かされた!

各市町のトピックスにあるような、早期のニーズ把握、迅速なボランティア募集やブロックごとによる社協支援は、すべて今回新たに気づかれたものというよりはむしろ、日常の取り組みやつながりを活かした仕組みといえます。つまり、平時の活動やつながりは、災害時の対応に大きく反映されます。

日常の、小地域福祉活動・ボランティア活動による、いのち、くらしやまちを守りあう取り組みや、住民同士、住民と社協、社協と関係団体のつながりや築かれた信頼関係が、今回の災害時の活動にも大きく活かされました。

日高町

町内3割程度が被害をうけてきたが、11年間養成してきたボランティア相談員44名が各小中学校で活動者として尽力しました。また、北但地区の社協が状況を把握し、その時々で必要な支援を行いました。

一宮町

家の裏庭まで土砂がせまるなど、土砂災害が中心で、重い土嚢の運搬など厳しい作業も多く、また2次災害にも配慮が必要でした。鳥外社協からのボランティアコーディネーターの協力によって、適切な現状把握と丁寧な指示ができました。

五色町

保健師や民生委員と連携して、要援護世帯を中心にニーズ把握を社協から町内でボランティアに呼びかけ、V連絡会・中学生・青年団等による泥がき土砂運搬等の支援活動を開始し、早期に対処することができました。又、町内にある、盲老人ホームのご協力で入園者の有志がマッシュポンボランティアとして活動し、片付けに疲れた被災者の方々は身も心も癒され大変好評でした。

洲本市

高齢者の多い市街地が被災したため当初は自治会や民生委員の協力により、要援護世帯を中心にニーズ調査に取り組みました。その後要援護世帯以外一般世帯を対象に含め、ニーズ収集を行いました。社協のガレージに設置したボランティアセンターでは、県社協、神戸市社協、さらに高知県から駆けつけたNPOなどがコーディネーターに当り、被災後6日目にバウンスセンターに隣接する旧カネボウ事務所に移転することができ、大勢のボランティア受入が可能になりました。また、県要請で災害救援専門ボランティアコーディネーターが事務局に加わり、その豊かな実行力に助けられたことも特筆すべきでしょう。

三木市

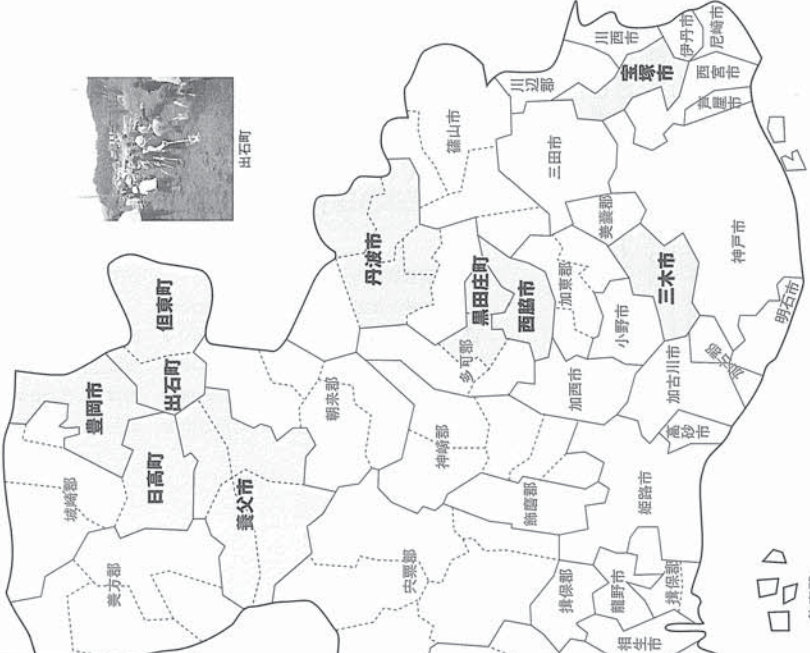
市と社協は災害対策本部の中に災害ボランティアセンターを設け、福祉課主幹のもとで社協ボランティアセンターが運営を行いました。ニーズ調査は行政、広域も含めたボランティアの受付・コーディネートボランティアセンターと役割分担を行い、密に連携をとりながら迅速な対応を行いました。また、県外・県内NPOに支援を要請するなど、日常の幅広いネットワークを活かした対応も行いました。

三原郡4町

三原郡の緑町、三原町、西淡町、南淡町では、共通の災害ボランティア募集パンフレットを作成、郡域の連携を取りながら、被災者の支援を行いました。

市町村社協の動き

～被災した市町村社協より～



但東町

水害より土砂災害が多く、町内へ入る道の多くが寸断され、町と連携をとりながら被災者の状況を調査し、対応にあたりました。また、災害復旧ボランティアセンター開設し、ボランティアを募り、復旧活動を行いました。

養父市

10月21日より災害ボランティアセンターを立ち上げ、甚大な被害を受けた八咫町・養父地区にボランティア支援を行いました。地域を熟知したボランティアコーディネーターとともに安否確認やニーズ把握を行い、早期の対応が可能となりました。

丹波市

合併直前に被災した、水害では、町内のボランティア活動のおかげで約1週間が片付きました。その他、青根、春日、市島でもボランティア連絡会や防災無線を通じて体力に自信のあるボランティアを募り、これまでに参加したことのいな層が集まりました。

黒田庄町

翌日より災害ボランティアセンターを設け、地域住民・ボランティアや消防団員等が中心となって浸水家屋片付けや炊き出しを行いました。一段落ついた時点で、町の保健師、社協職員が2人1組になって被災者宅を訪問し聞き取りを行いました。

宝塚市

武庫川の増水で温泉で有名で、武庫川地区が被災し、21日に災害ボランティアセンターが設置されました。社協と市内のボランティアで組織している災害ボランティア事務局で、市内外から駆けつけたボランティアのコーディネートを行いました。

豊岡市

社協の建物が被災したため当初は混乱しましたが、市内の民生委員や区長、在宅介護支援センター職員等とのネットワークが機能し、被災者ネットワークを把握することができました。水害ボランティアセンターの開設に際して行政の判断が的確で、その運営には応援社協職員やNPO、JC等様々な団体が協力し、近隣府県を含め多くのボランティアを受け入れることができました。災害対策本部に担当者を常駐させ、情報の共有にも努めたこともセンターが円滑に機能した要因です。また、被災地が広がったので、サテライトやプラントを設置して、なるべく現地に近いところにある委託の体制を取ったことも重要であったと思われま。

出石町

出石川の決壊による鳥居地区の土砂による被害がひどく、町区長との連携のもと、受付後にボランティアが直接現場の拠点に入り、活動を行いました。また、豊岡市とのボランティア受入の連携や、兵庫県・美加郡ブロッグと大府下社協職員等の協力により、水害ボランティアセンターの機能が確立されました。

西脇市

10月22日～28日まで、市内内外からボランティアを募集しました。社協の建物が床上まで浸水し、機能がストップしましたが、東播磨ブロックの社協が支援に駆けつけました。また、被災世帯支援に向けたボランティアは、西脇市が中心となって募集を行いました。

津名町

津名町ボランティア連絡会が被害のひどい志賀地区の支援を行い、町内のボランティアが炊き出しに当たりました。また、民生委員によるニーズ調査などと、連携を取りながら、被災者の支援を行いました。



洲本市

P3の続き……

＜ボランティアコーディネーターの動き＞

日に5百〜1千、一時に集中するボランティアの受付を的確、迅速にさばくには、ベテランのコーディネーター力が求められます。また、被害が広域に及び、ボランティアによる作業が長期にわたると想定されたことから、県内外から多くのボランティアコーディネーターの協力をお願いしました。10月23日、11月6日にかけて、洲本市、豊岡市、出石町、津名郡一宮町の4市町に県内市区町村協から総勢62名を、県外からは、10月23日〜11月3日にかけて、近畿、中国、四国ブロックの社協からも、総勢70名にも及ぶ職員を派遣いただくとともに、シャンティ国際ボランティア会(社団法人)やJICにもご協力いただきました。

また、洲本市では災害救援専門ボランティア(ボランティアコーディネーター)の出勤をお願いしました。



今回の災害に寄せて

ひょうごボランティアプラザ
所長 小森 星児

災害は忘れた頃にやってくるという名言があるが、それも思いがけないかたちでという一句を付け加えたほうがいいかもしれない。今回の水害の被災地で多くの関係者に話を伺うなかで、こうした感慨が浮かんだ。

10年前の震災の経験は生かされたかという問いに対し、災害ボランティアセンターの担当者は概ね肯定的であった。厳しい条件のもとで、最善を尽くした自負がうかがえる。しかし、事前の対策に震災の教訓が反映しているかどうかという点になると、問題は少ない。たとえば、多くの市町の地域防災計画には外部からのボランティア救援への対応策が欠けていた。

ボランティアの側にも、指示待ち症候群が見られたことも事実である。大阪大学の渥美公秀助教授(ボランティア論)は新潟県中越地震の現場から、「ボランティア自身がセンターの窓口に並び、仕事を振り分けられることを当たり前と思っはいけない」と指摘しているが、取材を終えて広域的なボランティア中間支援体制の必要性を痛感した。

＜ボランティア派遣バスの運行＞

今回の災害救援では、ボランティア派遣バスが目立ちました。一般募集もあれば、職場や学校が組織する場合などさまざまです。このバスのメリットは、① 事前に被災地の状況やボランティアの心構えをオリエンテーションでき、② 一度に大勢のボランティアを送り込め作業の割振りが容易になる、③ ボランティアの負担を軽減できる、ことなどが挙げられます。プラザでは、10月28日〜11月4日までの間、阪神南、東播磨、中播磨の各県民局や神戸ケーブルテレビのご協力を得て、但馬方面16台、淡路方面17台、計33台のバスが、千人を超えるボランティアを乗せて、被災地に向かいました。

市民団体等の動きについて

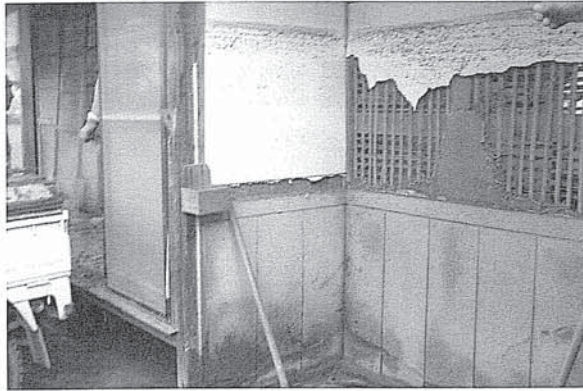
県下で最大の家屋被害を受けた豊岡市では、県内外の市町社協のほか、豊岡市水害ボランティアセンターにおいて、シャンティ国際ボランティア会、青年会議所、青少年本部などの関係団体がセンターの立ち上げや運営支援など本部運営に活躍するとともに、兵庫県移送サービスネットワークがマイクロバス等の車両を持ち込み、豊岡・出石で、センターから作業現場までのボランティアの移送を担うなど、NPOなどとの協働が、被災地域での円滑なボランティア活動の推進に大きく貢献をしました。

また、浸水被害による泥かき、畳等の搬出作業は急を要し、県内外から短期間のうちに大勢のボランティアを受け入れる必要があることから、県下18市町社協、県外の4社協、NPO関係や連合兵庫、コープこうべをはじめとする企業群や大学・高校生中心のボランティアバスも数多く運行され、交通事情も悪い中での被災地へのボランティア確保に大きな役割を果たしました。

このほか、全国の個人・団体・企業等から「心」を「モノ」に託して、心温まる支援をいただきました。高知県NPOボランティア・NPOセンター等による「タオルプロジェクト」、ラジオ関西や大阪ガスなどを通じたタオルの提供、兵庫県遊技協からの軽四輪・福祉車両の各1台の寄贈、日本経団連からの軽トラックのリース、京都市・区社協からのボランティア活動資金の寄付、救護施設ヨハネ寮からのカイロ寄贈など、ボランティア活動に役立てました。また、日赤や民間企業等から、飲料水や食料品、医薬品や日用品などの生活必需品の提供があったり、共同募金会や兵庫県が中心となって義援金を募り、被災者の直接的な生活支援に充てられることとなっています。

災害ボランティア 緊急派遣レポート

佐用郡上月町



「民家の土壁は大きな被害を受けた。」

9月29日の午後に淡路島を横断した台風21号により大きな被害を受けた佐用郡上月町に、10月2・3日、プラザから派遣要請をお願いした県下の三木、龍野、太子、新宮、佐用の市町社協をはじめ、ブレインヒューマニティー、被災地NGO協働センターなど総勢51名がボランティアとして現地に入った。活動を行ったのは、上月町老人

福祉センターが所在する久崎地区。

ここは、千種川と佐用川が合流する所で、折からの豪雨と重なり、行き場をなくした川の水が、周辺のお宮さんや民家を呑み込み、2・3戸が床上まで浸水した。橋の欄干には流木やゴミが巻きつき、家屋には、白壁や雨戸に泥水の浸かった後の線（ひどい所は170センチ位あった）がくっきりと残り、当日の豪雨や河川の氾濫の激しさを物語っていた。さぞかし、被害に遭われたご家族は、避難所で不安な瞬間を過ごしたと思われる。

現地は以外と平然としていたが、福井の時と同じでかなり埃っぽい。ゴミ処理が追いつかないのか、既に搬出された畳やタンスが道狭しと横たわり、曇天の下、沈痛な思いを抱きつつも、懸命に作業する被災した家族の姿が見られた。

ボランティアセンターからの指示は、泥水で汚れた畳や、タンス、家具調度の搬出、床板の除去と洗浄、



「家財を運び出すボランティア」

流木やゴミの撤去などの力作業。大人の中に中学生が混じり、泥に塗れながら、けなげに頑張る姿が印象的であった。2日間にわたる町外ボランティアと住民総出の共同作業により、とりあえず復旧作業にも目途が立ち、お手伝いした被災民家や上月町社協からもお礼の言葉をいただき、災害応援活動を終了した。

（文責・東）

このたびの災害救援活動にご協力いただいた多くの皆様には、厚くお礼申し上げます

ひょうごボランティアプラザ

（平成16年4月～11月）寄付をいただきました

ひょうごボランティアプラザへのご寄付、ありがとうございます。皆様からいただいたご厚志については、ボランティア活動支援や友愛事業に活用させていただいています。ボランティア活動支援事業へ寄付いただいた団体・個人

氏名・団体名

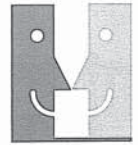
- 関西スーパーマーケット
- 柴田最正堂
- 三宮センター街1丁目商店街振興組合
- 三宮センター街2丁目商店街振興組合
- 三宮センター街3丁目商店街振興組合
- 中播磨地区社会福祉協議会連合会
- ハイウェイのじぎく会
- 兵庫県（善意の寄附金）
- 兵庫県茶道協会
- 兵庫県立神戸高等学校
- 窓口募金（半期分）

友愛事業へ寄附いただいた
団体・個人

氏名・団体名

- 浦谷良美
- 下野昌宏
- 手嶋克樹
- レストラン トーヨー

（五十音順 敬称略）



1月分 阪神・淡路大震災10周年関連行事

日程	ボランティア関係主要行事名
16日	国際協力ひろば 特別シンポジウム(仮称)
16日	神戸発! 自主防災大会
17日	1.17ひょうご メモリアルウォーク2005
17日	阪神・淡路大震災10周年 追悼式典
17日 ~19日	アジア防災会議2005
18日	地域防災シンポジウム in神戸
18日	アジア地域における防災 NGOの多国間総合交流
18日 ~22日	国連防災世界会議
19日	市民フォーラム「来るべき 大地震に備えて」仮称
20日 ~21日	災害ボランティア世界会議
21日	国連防災・人道支援フォー ラム「大災害を語り継ぐ」
29日 ~30日	第5回ひょうごボランタリ ー・スクエア21
30日	NPOボランティア文化 フェスティバル



年末年始の
休館のお知らせ

ひょうごボランティアプラザは、
12月28日(火)から、1月3日(月)まで
休館いたします。1月4日(火)から、
平常どおり開館いたします。

1月分 阪神・淡路大震災10周年関連行事

- 国際協力ひろば 特別シンポジウム(仮称)
日時・場所:1月16日 神戸市(神戸文化ホール)
内容:ボランティア活動を改めて検証 基調講演・パ
ネルディスカッション・パネル展示・ブース展
開(予定)
実施主体:阪神淡路大震災10周年記念国際協力
ひろば特別シンポジウム実行委員会
問い合わせ:078-230-3260
- 神戸発! 自主防災大会
日時・場所:1月16日
神戸国際会館・神戸市勤労会館
内容:「防災福祉コミュニティ」の取り組みを中心に
発信することによって、自主防災活動の活性
化と災害による被害の軽減に努める
実施主体:防災を考える地域のつどい実行委員会
問い合わせ:078-325-8510
- 1.17ひょうごメモリアルウォーク2005
日時・場所:1月17日 被災地域
内容:1月17日避難路をともに歩き、震災の経験
と教訓を風化させないように次世代に語り
継いでいく
実施主体:1.17メモリアルウォーク実行委員会
問い合わせ:078-362-9341
- 阪神・淡路大震災10周年追悼式典
日時・場所:兵庫県会館及びHAT神戸
内容:阪神・淡路大震災の犠牲者を悼むとともに、
未来に向けて力強く歩む決意を内外に発信
するため、追悼式典を開催
実施主体:阪神・淡路大震災10周年追悼式典委員会
問い合わせ:078-362-9341
- アジア防災会議2005
日時・場所:1月17日~19日
神戸市(神戸ポートピアホテル)
内容:震災の教訓、防災政策についての議論する
国際会議、オープンフォーラム
実施主体:アジア防災会議2005実行委員会
問い合わせ:078-262-5540
- 地域防災シンポジウム in 神戸
日時・場所:1月18日 国際会議場
内容:「ともにつくる安全で安心なまちづくり賞」
の表彰式防災及び復興の総括・検証に関連
した特別講演やパネルディスカッションなど
実施主体:地域防災シンポジウムIN神戸実行委員会
問い合わせ:078-322-6487
- アジア地域における防災NGOの多
国間総合交流
日時・場所:1月18日 神戸国際会議場・国際展示場
内容:防災に関するアジア地域と日本のNGOの交
流を通じたコミュニティレベルの防災能力
向上のためのワークショップなどを実施
実施主体:財団法人都市防災研究所 アジア防災センター
問い合わせ:078-262-5540
- 国連防災世界会議
日時・場所:1月18日~22日
神戸市(ポートピアホテル)等
内容:新たな国際防災戦略の構築を図る国連公式
会議と防災関連イベント等の開催
実施主体:国連・国・兵庫県
問い合わせ:078-362-9818
- 市民フォーラム「来るべき大地震に備えて」仮称
日時・場所:1月19日 神戸国際会議場
内容:来るべき大地震に備えて、多くの方々に命
の大切さ、防災・震災対策の意義・必要性を
理解してもらい、安心で安全な街づくりを目
的に市民フォーラム開催
実施主体:NPO法人・家・街安全支援機構
問い合わせ:06-6456-1010
- 災害ボランティア世界会議
日時・場所:1月20日・21日 神戸市内
内容:全国の災害救援ボランティアが集い、日本
のボランティア活動の現状を世界に向けて
発信する
実施主体:災害ボランティア世界会議実行委員会
問い合わせ:078-231-9011
- 国連防災・人道支援フォーラム「大
災害を語り継ぐ」
日時・場所:1月21日 ポートピアホテル周辺
内容:阪神・淡路大震災を中心に過去の大災害に関
する様々な「語り継ぎ」の事例や計画を紹介。
市民レベル・行政レベルの各観点から、その
重要性について再確認。
実施主体:国連防災・人道支援フォーラム実行委員会
問い合わせ:078-262-5067
- 第5回
ひょうごボランタリ
ー・スクエア21
日時・場所:1月29日・30日 神戸クリスタルタワ
ー
内容:県内各地域のボランタリ活動団体間の交
流促進、活動団体と企業等資金提供者との
マッチング等の取り組みを通じて、県民に
対する県民ボランタリ活動への理解と参
加の促進を図る
実施主体:第5回ひょうごボランタリ
ー・スクエア
21 実行委員会
問い合わせ:078-360-8845
- NPOボランティア文化フェスティバル
日時・場所:1月30日 東灘区民センター分館
内容:震災をきっかけに発足したボランティアグル
ープ等が一堂に会し、それぞれの活動を報告
実施主体:NPOボランティア文化フェスティバル
問い合わせ:078-841-0310

●2004年12月5日発行(隔月5日発行) ●編集・発行所/社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ URL http://www.hyogovolplaza.jp
●〒650-0044 神戸市中央区美川町1-1-3 神戸クリスタルタワー110階 TEL:078-360-8845 FAX:078-360-8848 ●発行人/辻 眞 ●編集人/小森 星彦